FFGS iAutolay Magic導入事例 <2>

納期3分の1に大幅短縮

㈱学研スマイルハート

名刺制作の作業効率化実現

粕谷森氏

上田圭介氏

岩崎文俊社長

「iAutolay Magic」操作風景

研スマイルハート（本社・東京都品川区西五反田2−11−8、社長：岩崎文俊氏）だ。

同社は「iAutolay Magic」と力ラーオンデマンド・パブリッシング・システム「富士ゼロックス VersantTM 80Press」を導入し、学研グループ各社から発注される名刺印刷やチラシ・小冊子作成の大幅な効率化・生産性アップを実現。作業負荷軽減が図れたほか、印刷物の納期短縮ができ、発注者からも好評を得ている。Web to Printを採り入れた背景や具体的なメリットなどについて代表取締役社長・岩崎文俊氏、管理部・粕谷森氏、オフィスサービス部・上田圭介氏に話を伺った。

【従来はメールで受注、1日20件が限度だった】

学研グループは「教育」と「医療福祉」を2大ドメインとし、「教育」では学研教室・進学塾の事業や、教育をメインとした各種出版や関連デジタル事業、幼稚園・保育園・小中高への教材等の販売、「医療福祉」では介護や保育、医療に関するさまざまな事業を展開している。

学研スマイルハートは、同グループの障がい者雇用促進を目的として2012年に設立された㈱学研ホールディングス100%出資の特例子会社（※）。「教育」と「医療福祉」に関する事業を柱とする学研グループの一員として、障がい者の雇用促進、就労継続や職域開発に取り組んでいる。

同社は設立当初からオフィスサービスの一環として名刺制作業務を行っているが、従来はメールで注文を受け、メール文面の情報を元にデータを作成、名刺専用プリンターで印刷後、文字校正と検品を行い納品していた。

学研ホールディングス傘下には数多くの子会社があり、学研スマイルハートはその大半の会社から名刺制作を受注している。しかも部署ごとからではなく各個人から個別の発注をする会社が多いため、データ作成・校正にかかる作業負荷が大きかった。

「メールでいただいた名刺情報を、フォーマット上にコピー&ペーストあるいは手打ちして印刷データを作成するという従来の工程では、手打ちの際に打ち間違いの可能性があるため、校正を必ず行う必要があった。また外字などはメール上で文字化けしてしまうこともあり、その確認作業が発生していた」（岩崎社長）。

とくに人事異動の多い10月などは制作が追いつかなくなるため、作業効率を高める必要性を強く感じていたという。「以前は入力から印刷、校正、検品、箱詰めまで1件につき平均約15分かかっていた。名刺の制作は1日20件が限度で、繁忙期には発注から納品まで中3日ほどかかることもありました」（上田氏）。

こうした課題を踏まえ、同社は作業の効率化、生産性向上のための新たなシステムを検討。その際、名刺印刷以外の仕事への展開も視野に入れた。そこで着目したのが、Web to PrintとPOD機の組み合わせだった。

「生産効率を上げるには、やはり受注の方法から変える必要があると考えたのです。いくつかの製品を比較検討しましたが、その中で『iAutolay Magic』が最も柔軟性があり、他のシステムに比べて自由度が高いという印象を受けました。また出力機として導入を決めていた『VersantTM 80Press』との親和性に優れることも、決め手の一つになりました」（岩崎社長）。

【午前中で50〜60件の生産が可能になり、翌日納品が実現】

2015年に「iAutolay Magic」と「富士ゼロックス VersantTM 80Press」を合わせて導入。名刺制作に関しては、入力・校正を発注者自身が行うようになったことで、受注から納品にかかるまでの時間が大幅に短縮され、生産性が格段にアップした。今では50〜60件の注文が入っても、午前中の正味2時間ほどでこなせてしまうという。

富士ゼロックス「VersantTM 80Press」

「校正の手間がなくなったのは大きい。作業負荷も減り納期もぐっと短縮できました。今では前日までに発注していただければ、翌日の午前中には納品することができます。この大幅なスピードアップは、グループ会社の皆さんから非常に喜んでいただいています」（粕谷氏）。

膨大な名刺発注データの管理から解放されたことも、作業の効率化につながっているメリットの一つだ。岩崎社長はこう語る。「メールで注文をいただいていたときは、異動後も旧部署を兼務する場合があり、旧部署の情報を消去していいのかこちらでは判断できず、過去に発注いただいた情報が溜まる一方でした。これはコンプライアンス的にも望ましくありません。しかし今は『iAutolay Magic』内で発注者自身が名刺情報の更新や履歴管理ができるため、こちらで名刺情報の管理に頭を悩ませる必要がなくなりました」。

また「iAutolay Magic」の導入は、学研グループで進めている名刺フォーマット統一の動きともマッチした。以前からデザインフォーマットはあったが、1件ずつ手作りで作成していたため、フォントサイズやルビの位置などに関して個別に要望を受けるケースも珍しくなかったが、現在「iAutolay Magic」で受注する名刺は、名刺規定に則ったフォーマットを作成し、原則として個別アレンジを行わない。その結果、グループ全体でのデザインの統一に寄与している。

【チラシ・小冊子の電子入稿にも活用】

昨年1月からは、名刺以外の印刷物についても「iAutolay Magic」の電子入稿機能を活用して受注している。「発注者がご自身で印刷用データを作成し『iAutolay Magic』でPDF入稿する形です。印刷物の内容はイベントで配布するA4ペラのチラシなどが多いですね。現状、まだ入稿原稿全体の1割弱ですが着々と増えてきています。最近ではチラシのほかに小冊子なども受注しています」（粕谷氏）。

学研グループは出版業務を経験している人が多いだけに発注側も仕上がり品質やコストに対する目は厳しい。しかし粕谷氏によると、オフセットで印刷した方が安く上がる1000部単位のものでも「iAutolay Magic」で発注されるケースがあるという。

「今日原稿をつくって今日すぐに使いたい、というような急ぎの印刷物が多いですね。『iAutolay Magic』と『VersantTM 80Press』の導入によって、そんな要望にも応えることができるようになりました。名刺以外の印刷物でも、このスピードの速さは非常に好評です。

品質についても、一度見本をお見せして確認をとってから印刷するので、納品してからのクレームなどはまったくありません」（粕谷氏）。

【障がい者の能力を活かしやすい環境に】

「iAutolay Magic」の導入は、工数削減・生産性向上のみならず、同社の社員の〝働き方〟にも変化をもたらしている。従来の名刺専用プリンターは入力から印刷、校正までが一連の作業であり、分担する事ができなかった。「iAutolay Magic」と「VersantTM 80Press」を導入後は、印刷、断裁、梱包、発送の作業を分担することができるようになった。

「障がいを持つ社員が全体の約半数を占める当社では、工程を細分化して、各自の能力を最大限に活かせるよう担当作業を割り当てることが重要になります。『iAutolay Magic』の導入によって、各種印刷物の受注から印刷、物流加工、発送という作業の流れを分業化できたことで、各作業を能力によって分担することができました」（岩崎社長）。

また「iAutolay Magic」導入前から名刺印刷を担当してきた上田氏は「印刷以外の作業にも携われるようになったことが最も大きな変化」と、自身の実感を語る。「現在は午前中は名刺印刷、午後は他の業務という形で、柔軟に働けるようになりました。これは印刷部門だけでなく会社全体の生産性向上にもつながっていると思いますし、私自身、仕事の範囲を広げられたことで自分の成長を感じることができ、それが喜びや、やりがいにつながっています」。

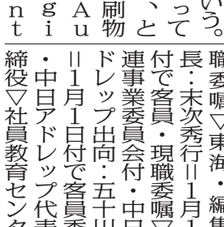
このように、さまざまな面で表われている導入成果を踏まえ、今後は会社としてもより多彩な印刷物の受注につなげていきたい考えだ。岩崎社長は「グループ外の会社やグループ会社の取引先へ提案をするなど、いくつかのアプローチ先を考えている」と語り、さらなる業務拡大に意欲を見せた。

（※）特例子会社＝企業が障がい者の雇用を促進する目的でつくる子会社。従業員50名以上の民間企業は障がい者雇用促進法で全従業員の2%以上、障がい者を雇用することが義務づけられているが、特例として障がい者のために特別に配慮した子会社を設立し一定の要件を満たせば、その子会社の障がい者雇用数を親会社および企業グループ全体の雇用分として合算することができる。

本格志向ユーザーとファミリー向けに

キヤノン

2機種のEOS発売



キヤノン（本社・東京都大田区下丸子3丁目30番2号、代表取締役会長CEO：御手洗冨士夫氏）は、カメラボディー上面の表示パネルや2つの電子ダイヤルを搭載し高い操作性を実現した本格志向ユーザー向けの「EOS 9000D」＝写真上＝と、簡単な操作で満足度の高い写真や動画の撮影が可能なファミリー向けの「EOS Kiss X9i」＝同下＝の2機種を4月上旬より発売する。価格はいずれもオープン価格。

【主な特長】

「EOS 9000D」および「EOS Kiss X9i」は従来機種を2年ぶりにリニューアルし、一眼レフカメラを新たに使い始めるユーザーのニーズに合わせてAF性能や画質、操作性、ネットワークとの親和性などを高めたデジタル一眼レフカメラ。

◎「デュアルピクセルCMOS AF」搭載により世界最速（注1）のAF合焦速度を実現

CMOSセンサーの画素が撮像と位相差AFの両方を行う「デュアルピクセルCMOS AF」をエントリークラスで初めて搭載し、ライブビュー撮影時に世界最速の高速AFを実現した。ファインダー撮影時でも上位機種「EOS 80D」（昨年3月発売）と同じオールクロス45点AF（注1）を採用、広範囲で高精度な合焦が可能。（注1）0・03秒。APS−Cサイズ相当の撮像素子を搭載したレンズ交換式デジタルカメラの撮像面位相差AFにおいて。2017年2月14日現在（キヤノン調べ）。

◎EOSエントリークラスにおける最高画質へと進化した基本性能

有効画素数約2420万画素（注2）のAPS−CサイズCMOSセンサーと最新の映像エンジンDIGIC 7搭載、高画素でありながら最高ISO25600（動画撮影時は最高ISO12800）の常用ISO感度を達成し、最高約6コマ／秒の高速連写撮影が可能。

（注2）総画素数は約2580万画素。

◎Wi−Fi／NFC／Bluetooth対応により携帯端末とのネットワーク連携を強化

リモート撮影や撮影後の写真、動画をワイヤレスで手軽に転送でき、SNSなどで共有できる。

人事異動

★中日新聞社　1月1日付

◇組織変更

東京本社事業局の企画事業部、出版部をそれぞれスポーツ事業部、出版・社会事業部に解消。

◇人事異動

名本・文化芸能局次長＝久充弘▽東海・営業局次長＝尾上佳和樹▽部長職　名本・編集局地方部次長：竹内啓治▽東本・事業局スポーツ事業部長（東本・事業局企画事業部長）古田真一▽出版社会事業部長（出版部長）東本・事業局次長：三橋正明

〈定年退職〉

2016年12月31日付

岐阜支社長：竹花孝則

＝1月1日付で客員・現職委嘱▽東海・編集局長：末次秀行＝1月1日付で客員・現職委嘱▽関連事業委員会付・中日アドレップ出向：五十川清

＝1月1日付で客員委嘱▽中日アドレップ代表取締役▽社員教育センター副支所長・業務担当）山西直規▽業務局販売管理部長（東北支所副支所長・業務担当）鈴木健一▽東北支所副支所長・業務担当（編集局整理部次長）山口武▽東京支所副支所長・業務担当（中国四国支所四国支所長）片平清海▽東京支所副支所長・編集担当（編集局ニュースセンター部次長）鈴木義則

〈中国新聞・関連会社〉

☆中国新聞販売センター

2月1日付

取締役・小見山文男▽退任：取締役・井上浩一

☆中国新聞輸送

2月1日付

取締役・小見山文男▽退任：取締役・井上浩一

☆中国新聞販売センター

2月1日付

取締役・小見山文男▽退任：取締役・井上浩一

★産経新聞東京本社

2月1日付

◇組織変更

新プロジェクト本部内に新たにコンシューマー事業推進室を設置する。

◇人事

コンシューマー事業準備室長兼務　新プロジェクト本部長：武藤伸樹▽コンシューマ準備室兼務　秘書室長：山根俊明、販売局次長：小佐治道夫、大阪本社販売局次長：須藤修、産経デジタル営業本部EC事業部長：佐藤弘之▽新プロジェクト本部長（新プロジェクト本部事業開発担当長兼産経編集センター（営業局人材育成担当部長）平野孝治▽営業局長兼営業本部長兼営業局長（高崎支社長）阿部和也▽編集局次長（事業局次長）兼編成センター総務課長：田中浩司▽読売光と愛の事業団出向・部長相当職（総務局幹事総務部）大浦哲▽十勝毎日新聞社出向・部長相当職（編成部長）手賀洋一▽クロスメディア部次長兼企画開発委員会事務局次長（経済部次長）浜中昭彦▽教育ネットワーク事務局専任次長（写真部長）＝写真大賞事務局＝専任次長）横山聡▽医療ネットワーク事務局次長（読売新聞グループ本社出向・部次長相当職）兼クロスメディア部次長兼企画開発委員会事務局次長：渡辺晋▽編集局管理部次長兼記者教育実行委員会＝記者塾＝事務局兼社員研修委員会実行委員（地方部次長）田中靖人▽編集委員＝経済部付（医療ネットワーク事務局次長）北山文裕▽科学部専任次長（配信部専任次長）清水慶一▽写真部専任次長（データベース部専任次長）岩佐譲▽会津若松支局長（北海道支社旭川支局長・主任職）高橋敦人▽データベース部専任次長（写真部専任次長）青木久雄▽メディア局営業部次長（メディア局編集部次長）竹内正幸▽北海道支社編集部次長兼旭川支局長（航空部次長）安田真章▽課長相当職・読売プラス出向・主任相当職：倉島守▽読売タスク出向・専任課長（販売局管理部専任課長）明平一彦▽デザイン部専任次長（デザイン部次長）吉田均

〈定年退職〉

紙面審査委員会専任部長・用語担当：関根健一▽編集局専門委員：岡崎裕哉▽北海道支社広告部専任次長：小笠原勝美▽読売理工学院出向・専任局次長：佐伯和宏▽読売プラス出向・専任課長：許斐弘明▽読売プリントメディア出向・専任次長：水野清治▽読売プリントメディア出向・専任次長：鬼澤正一▽定年扱い退職　広告審査部専任次長：石川隆之（1月31日付）

★読売新聞大阪本社　2月1日付

社会部次長（西部本社出向・部次長相当職）冨田智司▽航空課長（阪神支局長兼三田支局長）上出拓也▽地方部課長（豊岡支局長）山路博信▽阪神支局長兼三田支局長（社会部編集委員）橋本直人▽阪神支局専任次長（航空課長）脇孝之▽豊岡支局長（伊賀上野支局長）石田仁史▽伊賀上野支局長（地方部主任）吉田誠一▽専任部長　大阪読売サービス出向・部長相当職：小川力生▽読者センター専任次長（読者センター次長）南俊彦▽広告編成部専任次長（広告編成部次長）富田義武▽工程部専任次長（工程部次長）川野正則▽技術部専任次長（技術部次長）大坪弘欣▽専任次長　大阪読売サービス出向・部次長相当職：柳川慎一▽専任次長　読売システック出向・部次長相当職：池下直樹

★読売新聞西部本社　2月1日付

運動部長兼記者教育実行委員会＝記者塾＝委員（運動部次長）松元芳人▽専任局次長　読売西部サービス出向・局次長相当職：相川靖

★十勝毎日新聞社　2月1日付

整理部長兼務を解く

編集局長：末次一郎▽編集局長補佐兼整理部長（読売新聞東京本社から出向）手賀洋

★日本農業新聞社　2月1日付

論説委員室長（中国四国支所長）吉澤博英▽総務企画局長（北海道支所長）吉田聡▽業務局長（総務企画局長）庄司弘▽販売管理部兼業務局主幹（業務局長）久松俊英▽編集局農政経済部（論説委員室長）児玉洋子▽北海道支所長（業務局販売管理部長）佐藤英蔵▽中国四国支所長（東京支所副支所長・業務担当）山口武▽東京支所副支所長（編集局整理部次長）片平清海▽東京支所副支所長・編集担当（編集局ニュースセンター部次長）鈴木義則

〈中国新聞・関連会社〉

☆中国新聞販売センター

2月1日付

取締役・小見山文男▽退任：取締役・井上浩一

★産経新聞東京本社　2月1日付

◇組織変更

新プロジェクト本部内に新たにコンシューマー事業推進室を設置する。

◇人事

コンシューマー事業準備室兼務　新プロジェクト本部長：武藤伸樹▽コンシューマ準備室兼務　秘書室長：山根俊明、販売局次長：小佐治道夫、大阪本社販売局次長：須藤修、産経デジタル営業本部EC事業部長：佐藤弘之▽新プロジェクト本部長（新プロジェクト本部事業開発担当長兼産経編集センター（営業局人材育成担当部長）平野孝治▽営業局長兼営業本部長兼営業局長（高崎支社長）阿部和也▽編集局次長（事業局次長）兼編成センター総務課長：田中浩司▽読売光と愛の事業団出向・部長相当職（総務局幹事総務部）大浦哲▽十勝毎日新聞社出向・部長相当職（編成部長）手賀洋一▽クロスメディア部次長兼企画開発委員会事務局次長（経済部次長）浜中昭彦▽教育ネットワーク事務局専任次長（写真部長）＝写真大賞事務局＝専任次長）横山聡▽医療ネットワーク事務局次長（読売新聞グループ本社出向・部次長相当職）兼クロスメディア部次長兼企画開発委員会事務局次長：渡辺晋▽編集局管理部次長兼記者教育実行委員会＝記者塾＝事務局兼社員研修委員会実行委員（地方部次長）田中靖人▽編集委員＝経済部付（医療ネットワーク事務局次長）北山文裕▽科学部専任次長（配信部専任次長）清水慶一▽写真部専任次長（データベース部専任次長）岩佐譲▽会津若松支局長（北海道支社旭川支局長・主任職）高橋敦人▽データベース部専任次長（写真部専任次長）青木久雄▽メディア局営業部次長（メディア局編集部次長）竹内正幸▽北海道支社編集部次長兼旭川支局長（航空部次長）安田真章▽課長相当職・読売プラス出向・主任相当職：倉島守▽読売タスク出向・専任課長（販売局管理部専任課長）明平一彦▽デザイン部専任次長（デザイン部次長）吉田均

〈定年退職〉

紙面審査委員会専任部長・用語担当：関根健一▽編集局専門委員：岡崎裕哉▽北海道支社広告部専任次長：小笠原勝美▽読売理工学院出向・専任局次長：佐伯和宏▽読売プラス出向・専任課長：許斐弘明▽読売プリントメディア出向・専任次長：水野清治▽読売プリントメディア出向・専任次長：鬼澤正一▽定年扱い退職　広告審査部専任次長：石川隆之（1月31日付）

★読売新聞大阪本社　2月1日付

社会部次長（西部本社出向・部次長相当職）冨田智司▽航空課長（阪神支局長兼三田支局長）上出拓也▽地方部課長（豊岡支局長）山路博信▽阪神支局長兼三田支局長（社会部編集委員）橋本直人▽阪神支局専任次長（航空課長）脇孝之▽豊岡支局長（伊賀上野支局長）石田仁史▽伊賀上野支局長（地方部主任）吉田誠一▽専任部長　大阪読売サービス出向・部長相当職：小川力生▽読者センター専任次長（読者センター次長）南俊彦▽広告編成部専任次長（広告編成部次長）富田義武▽工程部専任次長（工程部次長）川野正則▽技術部専任次長（技術部次長）大坪弘欣▽専任次長　大阪読売サービス出向・部次長相当職：柳川慎一▽専任次長　読売システック出向・部次長相当職：池下直樹

★読売新聞西部本社　2月1日付

運動部長兼記者教育実行委員会＝記者塾＝委員（運動部次長）松元芳人▽専任局次長　読売西部サービス出向・局次長相当職：相川靖

★十勝毎日新聞社　2月1日付

整理部長兼務を解く

編集局長：末次一郎▽編集局長補佐兼整理部長（読売新聞東京本社から出向）手賀洋

★日本農業新聞社　2月1日付

論説委員室長（中国四国支所長）吉澤博英▽総務企画局長（北海道支所長）吉田聡▽業務局長（総務企画局長）庄司弘▽販売管理部兼業務局主幹（業務局長）久松俊英▽編集局農政経済部（論説委員室長）児玉洋子▽北海道支所長（業務局販売管理部長）佐藤英蔵▽中国四国支所長（東京支所副支所長・業務担当）山西直規▽業務局販売管理部長（東北支所副支所長・業務担当）鈴木健一▽東北支所副支所長・業務担当（編集局整理部次長）山口武▽東京支所副支所長・編集担当（編集局ニュースセンター部次長）鈴木義則

〈中国新聞・関連会社〉

☆中国新聞販売センター

2月1日付

取締役・小見山文男▽退任：取締役・井上浩一

☆中国新聞輸送

2月1日付

取締役・小見山文男▽退任：取締役・井上浩一